

令和8年度



東浅草小だより

台東区東浅草 2-27-19 TEL 03(3875)0035 FAX 03(3871)9515

<https://www.taito.ed.jp/1310224> 学校の様子や給食メニューを毎日更新中！



台東区立東浅草小学校

校長 岩崎 公慈

10月号

令和8年9月30日



副校長 名和 徹

2学期が始まって1か月が過ぎました。子供たちは、夏休みが明けて新学期を迎えた新鮮な気持ちをそのままに、今もやる気に満ちて頑張っています。先月は、平日開催の学校公開がありました。土曜日の学校公開とは違った、普段の学校生活を見ていただくことができたかと思います。子供たちの学習する姿をご覧になり、どのように感じましたでしょうか。あわせて、学校公開・夏休み作品展のアンケートにもお答えいただき、ありがとうございました。いただきましたご意見とご感想は、今後の教育活動に生かしてまいります。

夏休み中のある日、私が校舎内を見回っていた際に、図書室の壁新聞で面白い記事を見かけました。その記事のタイトルは、『台所で見つかる種子たち』でした。その記事には、台所にある食材を探してみると、植物の種子そのものや種子からつくられた食品などがたくさん見付りますと書いてありました。確かに、私たちが食べているお米も種子ですし、トウモロコシやゴマも種子です。加工食品の味噌や豆腐は元々大豆から作られていますし、パンやうどんも小麦から作られています。みんなが大好きなチョコレートもカカオ豆から作られています。

この記事を読んだときに、毎日の生活の中には、学びのきっかけが数多く隠れていることに気が付きました。「自分の家の台所には、いったい何種類の種があるのだろう。」「トマトやピーマンの種を土に埋めたら芽が出るのかな。」「どんな花が咲くのだろう。」と考え始めると、そこから新しい発見が生まれます。

何かを見て不思議に思ったり、「なぜだろう。」と疑問をもったりすることが、学びの第一歩となります。この「知的好奇心」こそが、自ら学び続ける力の源です。教科書の中だけでなく、家庭や地域、日常生活のあらゆる場面に学びの種は存在しています。普段の生活の中で、「これは何だろう」「こんなことやってみたい」といった新たな興味が、調べたり試したりする活動へとつながります。

本校でも、子供たち一人一人の「なぜだろう」「やってみたい」を大切にしながら、主体的に学ぶ力を育ててまいります。ご家庭でも、ぜひ日常の中にある小さな発見に目を向け、お子さんとの会話を楽しんでいただければと思います。

(少年写真新聞 No.1393 より)

